

白血球の減少



血液中の白血球は、体のなかに侵入してくるウイルスや細菌と闘う働きを持っています。抗がん剤を投与すると一時的に白血球が少なくなり感染しやすい状態になることがあります、日常生活に注意することが大切です。この白血球が減少する程度は、薬によって異なります（治療後2～3日から減り始め、7～14日で最も低くなります）。

症状

悪寒、発熱、咳、痰、腹痛、下痢、風邪をひきやすくなります。もともとかかっている、虫歯、歯肉炎、痔、気管支炎、扁桃炎が悪くなることがあります。

予防

- ・ 食事の前、トイレの後は石鹸を使って手をよく洗いましょう。
- ・ 人ごみはさけ、外出の際はマスクを使用しましょう。
- ・ 外出から戻ったら、うがい・手洗いをしましょう。
- ・ 毎日お風呂に入り、身体を清潔に保ち、排便後は肛門の周りをシャワーやウォシュレットできれいにしましょう。
- ・ 魚介類、肉類などの生ものはさけて、できるだけ火の通った消化の良い物を食べましょう。
- ・ 傷を作らないように、刃物類の取り扱いには注意しましょう（髭剃りには、電気かみそりを使いましょう）。
- ・ 虫歯、歯肉炎、痔、気管支炎、扁桃炎を事前に治療しましょう。

対策

- ・ 定期的に血液検査を受けましょう。
- ・ 白血球減少が激しい場合は白血球を増やす薬を使います。
- ・ 38度以上の発熱に対しては、主治医・病院に連絡をとり指示に従って下さい。また、あらかじめ処方されている場合は、抗生物質を服用しましょう。
- ・ 重症の症の場合は入院することがあります。

